

本會前會長名譽會員從三位勳二等

工學博士 服部 漸 君 小 傳

君は慶應元年2月18日播州姫路に生れ同地中學、東京進文學舎、大學豫備門を経て東京帝國大學採鑛冶金科に學び明治25年7月卒業後一時東京鑛山監督署技師として奉職せられたるも明治30年3月志を立て、當時建設中の八幡製鐵所に入所し直に製鐵事業練習の爲獨逸國に留學し同31年2月同地より更に海軍軍需工業見學の爲海軍省の依頼を受け英國に出張し歸途米國製鐵事業視察の上33年5月歸朝製鐵所技師に任ぜられ爾來製鋼部吹製科長、製銑部銑鐵科長、製銑部長兼鑑査課長兼鎮南浦出張所長に任じ明治43年5月再び歐米各國に出張具に各地の製鐵事業視察の上同44年2月歸朝後製鐵所臨時建設委員會委員長に任ぜられ大正3年8月製鐵所次長兼技師に進み大正4年2月博士會の推薦に依り工學博士の學位を授けらる大正7年2月一時製鐵所長官事務取扱に任じ製鐵所經理部長並に同所研究部長を兼ね同8年6月製鐵所技監に轉じ同11年退官に至る迄前後25年の久きに亘り本邦最大製鐵所の建設及其發展に盡瘁し退官後直に聘せられて漢冶萍煤鐵公司最高顧問技師として爾來6年間日支合辦事業の善後に盡瘁し昭和3年辭して歸朝せらる同年4月日本鐵鋼協會第七次會長に當選し本會の發展に盡力し其間萬國工業大會開催に際しては其副會長に擧げられ昭和5年3月鐵鋼協會會長滿期後尙ほ前會長として會に重きをなせり、製鐵所在官中は屢々清國朝鮮滿洲に出張し又其間民間製鐵所の技術的指導援助に關與し殊に本邦各地熔鑛爐の吹入に當りては概ね之に干與せざるなし君は八幡製鐵所退官に際し紀念資金委員會を設け募集したる金額中金二萬圓也を同委員會より本會に寄贈せられたるを以て本會は服部博士紀念資金取扱規則を設け鐵鋼に關する學術及技術上の進歩發達に貢獻をなしたるものに賞牌又は賞金を授與することとし昭和6年以來賞牌受領者8名賞金受領者72名の多きに達せり要する君は實に本邦製鐵技術界の元勳にして殊に本邦製銑事業の發展に對しては氏の努力に負ふ所多大なり宜なるかな朝廷其功を嘉せられ明治37~8年戰役の功に依り勳四等旭日小綬章を、大正3~4年事件の功に依り勳二等瑞寶章を、大正4~9年事件の功により旭日重光章を授けらる。

本會も亦大正14年本會第10週年紀念大會に際し製鐵功勞賞牌を贈呈し昭和5年4月本會名譽會員に推薦して君の本邦製鐵事業並に本會に對する功勞を表彰せり。

君資性寛容謙讓の君子人にして敢て功利を求めず恭儉己を技し學德兼ね備はり殊に後進の誘掖指導に對しては勳功を極め皆其雅懷に悅服せざるなし、昭和15年9月18日未明齡72才を以て膽道癌の爲長逝せらる。現下皇國未曾有の事變に際し戰時資材の根幹たる鐵鋼事業の使命重大なるに際し、俄に斯界の重鎮を失ひたるは寔に痛惜に堪へざるなり。然りと雖も君の嗣子法學士勝威君三菱經濟研究所員として活躍せられ數孫各々其學業に勵む君亦以て瞑す可きなり。

社團法人 日本鐵鋼協會